

ずいとんさん

むかし あるところに やまでらがあつてな、
そこに おしょうさんと ずいとんさんという なまえのこぞうさんがおつた。

あるとき、おしょうさんは むらに でかけるようがあつて、ずいとんさんはひとり、るすばんをしなくては
ならんことになつた

おしょうさんは、

「ずいとんや、きょうは わしのかわりに ほんどうで ごほんぞんさまに おきようをあげとくれ」といつて
でかけていった。

ずいとんは いわれたとおり ごほんぞんのまえにすわり

「なむあみだぶつ なむあみだぶつ」と おきようをあげておつたが、だんだんねむくなつてきて、こくりこくり
といねむりはじめた。

するとおてらのくりから

「ずーいとん、ずーいとん」と よぶこえがする。

ずいとんは くりにはしつていつて とを あげた。

ところが、そこには だーれもおらん。

「はてな おれはねほけたかな？」

ずいとんが ほんどうに もどると、

「ずーいとん、ずーいとん」と また だれかがよぶ。

ずいとんは

「やっぱり だれか よんでるぞ」と おもつて くりに とんでいつて とを あげた。だれもおらん。

「こいつは へんだぞ」

ずいとんは とを しめると、ほんどうにはもどらないで、くりの ちいさなまどを ほんのすこしあけて、
そとをみていた。

そしたらな きつねが あらわれてきた。

きつねは くりの とのまえに すいっーとたつて よりかかった。それから せなかをとにくつつけて、
しっぽで「ずーい」と とを こすり、あたまのうしろで「とん」と とをたたく。

それで「ずーいとん、ずーいとん」と きこえる

「ははあ、きつねのいたずらか。よーし、いまにみてるよ」

ずいとんは、きつねがしっぽで「ずーい」とやつて、つぎにあたまで「とん」とくるときをねらつて

「えいやっ」と

とを あげたからたまらない。きつねは くりのどまに すてーんと ころがった。ずいとんは とをしめ、しん
ばりぼうをふりあげた。

すると、きつねはあわてて ほんどうに にげこんだ。

「こらまて きつね」

ずいとんも ほんどうに とびこんだ。

ところが きつねのすがたは どこにもない。

「おかしいな、どこにかくれたんだろう」

ほんどうを みまわすと なんと なんと、いつもは ひとつしかない ごほんぞんさまが 2つならんぞる。

「さてはきつねめ、ごほんぞんさまに ばけたな」

けれども あんまりそっくりなので どちらが ほんどうのごほんぞんか わからない。

ずいとんは よくよくかんがえると、ふたつのごほんぞんのまえにすわつた。

そして、こつていつた。

「うちのごほんぞんさまは、おきようをあげると、およろこびになって したを ペろりと おだしになる。

したを おだしになったほうが、ほんとうの ごほんぞんさまだ。」
それから、ずいとは すまして

「なむあみだぶつ なむあみだぶつ」とおきようをあげた。

すると かたほうのごほんぞんが ペろりと しておだした。

ずいとは それをみると、ぱっと しんぱりぼうをつかんで にせほんぞんの あたまめがけて こつーんと
ふりおろした。

「いたずらぎつね、まんまとおれに だまされたな」

「ケーン」きつねは、ひとこえなくと そとにとびだした。

それから すたこら すたこら やまのなかに にげていったとき。